

- ・コラム(杉浦 良)
- ・お知らせ(阿波銀福祉基金助成)
- ・スタッフ雑感
- ・ご協力者名簿／編集後記

NPO法人 太陽と緑の会

かわら版

191号/2020 ▶ Since 1984

「共に働くということ」

杉浦 良

徳島で初めての福祉共働作業所（無認可）としてスタートしたのが1984年。当時学校に行けなかったハンディーを持ったメンバーは、養護学校（今の支援学校）には通えるようになりましたが、その後の居場所についての議論は始まったばかりでした。無い無い尽くして、持ち出しが当たり前だった当時、ようやく全国で43番目に、わずかな公的助成が出るようになりました。そのお陰で少しずつ障害者地域共同作業所（無認可）が誕生しました。全国的には、就学猶予されたメンバー達の居場所作りが始まり、内職作業やリクレーションを中心に、職員や保護者やボランティアがサポートしながらの共同作業所が次々と誕生しました。地域でバラバラだったメンバー達の居場所作りは大切ですが、それが日常になると、内職作業が苦手なメンバーやお金が沢山欲しいメンバーの不満が出てきます。しかし少ない補助金では、色々な作業を導入する余裕もありません。気が付けば全国に6000もの無認可作業所が作られ、各自治体からの補助金額は10倍以上の差がつかしました。

そんな頃、2006年の障害者自立支援法により、就労継続支援A型事業所、就労継続支援B型事業所、就労移行支援などという新しい言葉が生まれました。補助金ではなく国の保証する義務的経費（当時の入所施設、通所授産施設と同じ）となるため、各自治体の格差もありません。最低賃金を保証して労働契約を結ぶA型、利用者として工賃を支給するB型、支援をしながら一般企業に実習トレーニングする移行支援といった形に、多くの無認



太陽と緑の会事務局
太陽と緑の会リサイクル作業所

可作業所が心を動かされました。そして「福祉から就労へ」の掛け声のもと、この10年で障害者福祉の色合いが大きく変わりました。就労継続B型では支給する工賃により事業所への給付金の差が付けられ、ますます工賃アップにウエイトがかけられる今があります。作業内容としては、内職作業からアクセサリーや人形、藍染といった工芸品やクッキー、ケーキなどのお菓子作り、喫茶店やうどん屋、弁当屋さんといった事業展開や農産物生産、清掃作業の請負など色々工夫されています。ただそれでもメンバー達に最低賃金を確保する利益の捻出は、至難の業でしょう。

就労継続A型でもB型でもない、地域活動支援センターⅢ型の太陽と緑の会リサイクル作業所（現在450万+機能強化事業費150万/年）は、あえて「共同」でなく「共働」にこだわりました。ハンディーがあっても大人としての尊厳を保ち社会の一員になるには、共に働くこと（広い意味での）が必要だと思うからです。徳島で初めて「人も物も活かされる街造り」などとイメージフラッグを挙げ、不用品の回収作業、リサイクルショップとしての販売活動や資源ごみのリサイクル、自転車のリコース、環境保全・社会教育・支援活動といったウイングを広げました。そこに様々なハンディーを持ったメンバーに関わってもらうことで、作業内容の幅を広げました。

ただどんなにトレーニングしても、やれる人とやれない人が出てきます。こちらが望むメンバーが来てくれるわけでもありませんし、活動を成り立たせるために、メンバーがやれない事はスタッフがやるか、ボランティアにお願いするしかありません。それぞれが関わることでこの活動が成り立つ訳です。「メンバーがやれることはメンバーにやってもらい、どうしてもメンバーでは難しい作業をスタッフが言い、支援することでスタッフの給料を成り立たせない（補助金がなければ当たり前でしょうが）」ことを続けているうちに、若手の新人スタッフより仕事を任せられるベテランメンバーの方が手取り給料（障害者年金を含む）は多くなりました。

ただ全てのメンバーがそうなれるわけでもなく、通うだけで精一杯のメンバーや作業になかなか取り組めないメンバーの存在もあります。そんなメンバーを排除すれば（やれるメンバーばかりを集めれば）「何のための地域の福祉共働作業所？」といった矛盾が出てきます。気が付けば100円から796円までの時給幅となりました。

「時給796円（最低賃金）もらえますか？」と、初めてのメンバーに聞かれることがあります。「普通は100円からのスタートで、最初から796円はもらえません。ここで初めから796円をもらえる人は一般就労できると思いますが・・・人生は長いから、半年や1年で調子が悪くなったり、あれもこれも要求されて辞めてしまうより、細く長く続けることが、大事だと思うけど・・・」そんな返事をします。

「障害に合わせた教育や仕事が必要・・・そのことでそれぞれが活かされる」といった理由で、障害別に分けたり能力別に分けたりすることが当たり前になりました。ただここで36年間ほどお付き合いさせてもらった経験から「時給が低くて時間（作業）が短い、時給が低くて時間は長い、時給は高くて時間が短い、時給は高くて時間も長い」といった作業の在り方を認め、スタッフも含めて、それぞれがいることで全体が成り立つ活動（作業）が、インクルーシブな空間（社会）を作り上げるのにとっても重要だと実感しています。

新型コロナ禍で、それまで勤めていた会社の仕事自体が無くなり、自宅待機を余儀なくされたメンバーがいます。「・・・働く所がなくなって・・・しばらくは遊んでいたが・・・そのうち不安でパニックになるんよ・・・ハローワークに行ってもやれそうな仕事がないし・・・子供は大変だけど親も大変・・・もうお金の問題じゃないんよ・・・」

そんな言葉をしみじみ聞かせてもらった年の瀬です。

お知らせ

新型コロナウイルス対策

当会の建物は天井が高く、特に2階は天井がない吹き抜けの構造になっているため、通常の建物に比べ、室内に空気がこもりにくい構造になっていますが、入口のドアや店内の窓を開放し、換気扇も常時稼働させるなど、徹底した換気を行っています。

またレジカウンターでは、飛沫感染予防対策として防災透明間仕切カーテンを設置し室内用除菌消臭剤も散布、階段の手すりなどは定期的なアルコール消毒を行うとともに、お客様用の消毒用ハンドアルコールも設置しています。

感染拡大が懸念される中、市民の皆様にご安心してご利用頂けるよう努めていきたいと思っております。

阿波銀福祉基金助成

阿波銀福祉基金様から障害者地域共同作業所太陽と緑の会月の宮作業所に助成を頂き、プレゼンやデータ入力等で必要なノートパソコンを購入致しました。

阿波銀行経営統括部副部長の佐藤さんと地域貢献事業担当の尾田さんが、徳島市郊外にある月の宮作業所に来られました。元豚小屋での自転車リユース・リサイクル作業や畑などをご覧いただきました。

「ここが徳島県で初めての障害者地域共同作業所です。当初公的助成は全くありませんでした・・・他の障害者施設と比べる

と箱モノは雲泥の差がありますが・・・いまだに障害者総合支援法にのらず、年間340万の公的助成で人件費から水光熱費土地代保険代、車の維持管理費等全てを賄っています・・・36年前から持続可能な作業所の在り方を実践してきました・・・」

そんな説明と、かつて阿波銀福祉基金より助成を受けた備品等もご覧頂きました。わざわざお越し下さった佐藤さん尾田さんに感謝です。ペーパーより現場を見ていただく事の大切さを、改めて感じました。

定休日及び冬期休業

冬期休業

12月28日(月)～1月7日(木)

1月11日(月・祝日) 12日(火) 13日(水)

20日(水) 26日(火) 27日(水)

2月2日(火) 3日(水) 8日(月) 9日(火) 10日(水) 11日(木・祝日)

2月17日(水) 22日(月) 23日(火・祝日) 24日(水)

※政府から各方面への要請も踏まえ、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、長めのお休みとさせて頂いております。

当会をご利用して下さる皆様には大変ご不便をおかけすることになるかと存じますが、よろしくお願い致します。

スタッフ雑感

私が初めて仕事として障がいを持たれている方と関わったのは、京都の障害児入所施設で、1981年「完全参加と平等」をテーマにした国際障害者年の年で、お祭り騒ぎの中でした。

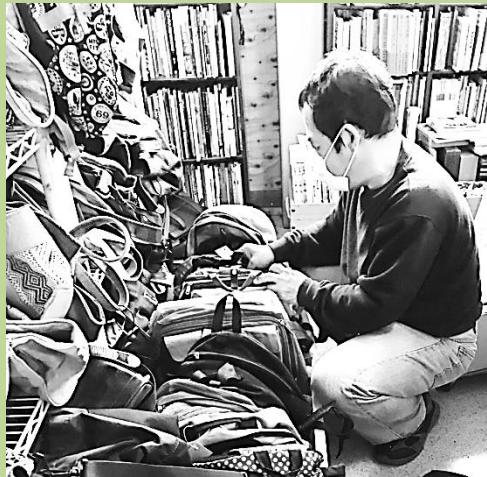
しかし、現実には厳しく、座敷牢(担当の精神科医がこの様な言い方をされました)に閉じ込められていたり、自閉症児は「テレビばかり見せていたから、こんなになったんや」と言われたり、そんな時代でした。その後も福祉関係の仕事に従事し、障がいを持つ就学前の子供さんから、認知症の方までと様々な人と関わってきました。その職場、職場で新たな発見、感動、驚きがありました。当会でも同じですが、度合いは過激で、メンバーさんの強烈な個性に驚かされました。メンバーさんの表面だけを見ていると、理解できないことも多々ありましたが、そのメンバーさんの背景を考えると日を追うごとに少しずつ分かることが増えてきました。

日々の活動は、特に大きな変化はなく過ぎていきます。ただ活動当初の頃を振り返

ると、変化に気が付きます。出勤時間は11時過ぎ、お昼過ぎると「帰らせてもらう」と言っていたAさんも、今は朝のミーティングから閉店まで作業されるようになったり、作業せずにブラブラしていたBさんも商品を磨く作業に取り組んだり、話しかけても無視をしていたCさんが冗談を言ってきたり等々、大きく変化していて活動を始めた頃を懐かしく思い出します。

活動に参加して2年数ヶ月、優しい言葉に涙が出そうになったり、大爆笑したり大爆笑されたり(特に私の失敗に)、真剣に言い合いをしたりと、変化に富んだ日々を送らせて頂いています。時には一歩進んで二歩下がることもあります。結果としては一歩下り失敗のようですが、踏み出した一歩(挑戦)は大切に意味あるものだと思っています。でも、下がってばかりだと進まないの、三歩進んで二歩下がることを目指して一歩一歩進んで行けたらと思います。

(専任職員 山下 久美子)



左：昼食(カレー)用の鶏肉カット
中・右：新館売場のリユース商品整理

当会の活動をご支援下さった皆様

§ 2020年11月1日～2020年12月19日§ (紙面の都合上、敬称は略させていただきます)

ご寄付を下された皆様

匿名(郵便振替口座)内原、豊崎医院、大谷

品物を持って来て下さった皆様(郵送含む)

○徳島市○林、加藤、浅尾、村瀬、谷口、杉原、藤井、岡島、石本、照本、藤本、原、遠藤、猪俣、大寺、福永、藤川、板東、近藤、原田、島本、第一病院、佐々木、鎌田、横田、吉本、國見、佐原、宮城、長尾、元木、西田、竹内、大島、西内、元木、瀬尾、八十川、青井、小笠原、岡林、中園、山口、津田、杉浦、山田、中西、岸本、津田、小倉、大吉、三浦、山本、田中、宇原、セキ、森、板東、井内、西川、藤岡、正木、照本、細川、後藤、加藤、白石、桜井、津村、木村、助岡、菅、阿部、酒巻、妙見、岡島、梶井、水沢、鈴江、田和、黒川、原、吉岡、森田、武市、山下、猪山、藤本、平岡、野々瀬、大上、三ツ井、伊藤、三木、麻植、新居、藪原、荒木、岡本、大島、本田、前田、大西、下泉、橋本○藍住町○犬伏、和泉、山本、柳野、藤永、豊岡、三好、岩谷、渡部○松茂町○岩本○鳴門市○山本、芝、東、青山、渡辺○石井町○近藤、岡田、植田、武市、平尾、井上、経塚、重井、西浦○三好市○山下○小松島市○新居、浜崎○阿南市○上田、家神○美馬市○高木○神山町○森、田中○阿波市○新見○上板町○安永○吉野川市○藤田、藤井、原田、白岩、市村、住友○愛媛県○浜田○京都府○木村○岡山県○高橋○長野県○吉川○香川県○松村○東京都○瀧倉、小林、三木

品物を引き取りにお伺いさせて頂いた皆様

○徳島市○小椋、近藤、武岡、岡田、遠藤、幸田、池田、南、佐藤、山田、四宮、久岡、村崎、尾崎、大北、矢部、西林、志摩、ウオザ、若草幼稚園、土肥、宮越、毛利、鎌田、内田、池村、押栗、横山、酒井、名賀石、糸井、松田、赤澤、豊井、宗田、上野、明石、漆原、ユアサ、住友、宇治、川野、大櫛内科、蔵本、来島、生田、吉田、日浦、松原、福永、尾崎、ピンク美容室、三木、宗田、ホソヤ、上西、山口、川人、宮崎、高木、ハヤクモ、濱田、西、河野、山一水産、米原、岸野、ブラブン夏子のリフォーム 久米、早瀬、丸益、大戸井、中井、池田、友井、東山、坂本、高橋、出口、藤田、吉田、伊藤、今枝、西谷、増田、米沢、田村、渡部、小林、松本、和泉、安芸、田中、井上、宮成、端野○鳴門市○北室、平野、木内、中岸、赤川、久龍○小松島市○木下、楨本○藍住町○上田、成田、市原、木内、森、林、中、有井、岡田、阿部、長袋○北島町○天羽、ケントホームズ、久米、津川○吉野川市○板野○石井町○三木、森、山崎、ひろま○松茂町○紙永、山田

いつも当会の活動にご支援ご協力頂き、ありがとうございます。品物を持って来て下さった皆様の中には、「何回も来て、書いているので」「名前は結構ですから」と、お名前を書かずに帰られた方も多数おられ、実際は上記の3倍以上の皆様からご協力を頂いております。頂いた品物は大切に活用させていただきます。リユース・リサイクル可能なものがございましたら、ぜひお電話下さい。また食材や旬のお野菜、果物、お飲み物やお菓子などを差し入れて下さった皆様にもこの場を借りてお礼申し上げます。

※本誌へのお名前の掲載を希望されない場合は「匿名希望」と記入して頂ければ幸いです。

編集後記～新型コロナウイルスの1年

新型コロナウイルス感染防止のための外出自粛の影響で、本館建物が火災で全焼した平成17年以来の厳しい1年となりました。

リユース品の販売収入は多い時で前年度比4割も減少。太陽と緑の会は公的資金への依存度が低い、言い換えればリユース品販売収入への依存度が高いため、大変な打撃を受けました。

周囲に大きな建物がなく、川からの風を窓から取り込み、開放した窓や換気扇による換気も十分に行っている当会の建物で、密集するほどお客様がお越しになることもまずございませんが、念には念を入れる意味で、毎年行ってきた感謝セール開催も見合わせることにしました。

すでに欧米諸国では新型コロナウイルスのワクチン接種が始まっていますが、日本は大きく遅れをとっており、来年も締めたり緩めたりを繰り返す厳しい1年になることを覚悟しております。

4月に緊急事態宣言が発出され、とある日曜日がお休みになると、転売目的で来られていた方の半数以上がパタッと来られなくなりました。

変わらずに足を運んで下さったのは、「何かに役立ててほしい」とリユース品を持って来て下さる皆様や、少しでも安く生活用品を手に入れたいと思って来られている皆様でした。

公的資金に軸足を置く福祉施設ではなく、営利目的のリサイクルショップとも違う、私たちのような活動が、未曾有の危機ともいえる1年を何とか乗り切ることができたのも、ひとえに支えて下さった皆様のおかげです。

今年1年本当にありがとうございました。新年もよろしく願いいたします。

なお本誌の発送を持ちまして、新年のごあいさつに代えさせていただきます。

(文責：小山)

NPO法人 太陽と緑の会

私たちは、「人も物も活かされる街づくり」をテーマに、ハンディのあるなしに関わらず「地域の中でその人がその人の足で立っていけること」を目指し、様々な方々（市民、ボランティア、行政）の支えを頂きながら土、日を含めた日常活動を行っています。

これは、日本の次世代型ソーシャルアクションモデルになると考えています。このような活動のあり方により、徳島の将来や日本の未来が、幸多く豊かであることを願っております。

発行：NPO法人 太陽と緑の会

〒779-3120 徳島市国府町南岩延 107-1

TEL・FAX 088-642-1054

代表理事 杉浦良 編集 小山 隆太郎

ご協力者名簿作成担当メンバー 岡田

ゆうメール押印・宛名シール添付担当メンバー 堀

製本・発送作業担当メンバー 岡田 福住 宇津

年会費：正会員 1万円 (総会議決権)

準会員 1,000円 (機関誌発送のみ)

郵便振替口座

01620-8-44703

加入者名：特定非営利活動法人太陽と緑の会